スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

静岡県 藤枝市

自 治 体 名 ： 静岡県藤枝市
担 当 課 名 ： 教育委員会教育政策課
電 話 番 号 ： ０５４－６４３－３１３５

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	194.06 ㎢
人口	139,870 人
公立中学校数	10 校
公立中学校生徒数	3,773 人
部活動数	80 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

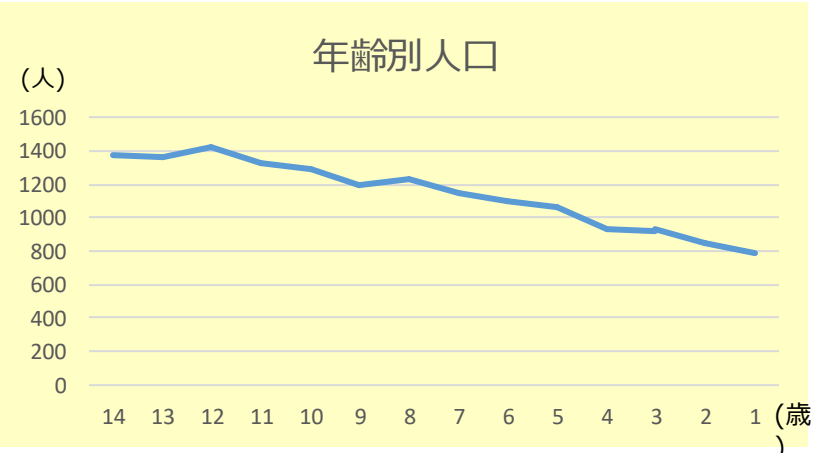
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、藤枝市では中学校10校で８種目80部の運動部活動が活動している。近年の部員数の減少に伴い、野球、ソフトボールは合同部活動として活動している。また、３校の３種目７部は、個人戦には出場できるものの団体戦の人数がそろわない状況である。

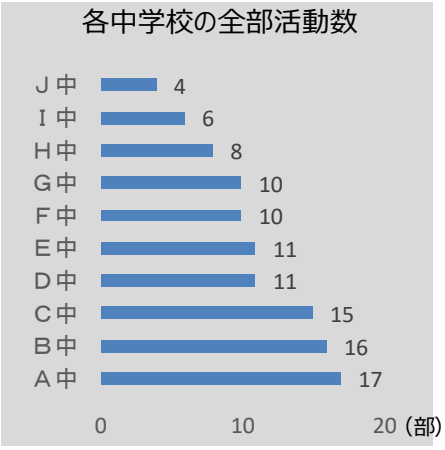
市の年齢別の子どもの人口を見ると、12歳人口をピークに７歳で20%減、２歳では40%減となっており、今後も減少傾向が継続している。部員数だけでなく教員数も減少するため、現行の部活動の体制の継続は困難である。

中学生への指導を教員なしで継続的に行っていただける地域指導者は、多くはいないことが想定される。教員に関しても、休日の部活動に携わりたいと答えた中学校教員は12.1%、小学校教員4.3%であり、以前の調査から減少傾向が見られ、十分な人数を確保できない。

10校ある市立中学校は、中心部の大規模校と周辺部の中・小規模校となっており、設置部活動数に大きな差があり、生徒の選択の幅が異なっている。今後の少子化も周辺部の若年層の減少割合が大きいことが想定され、住んでいる場所に関わらず、どの子も興味・関心のある活動を選択できるような体制づくりが必要である。



(令和６年4月30日藤枝市調べ)



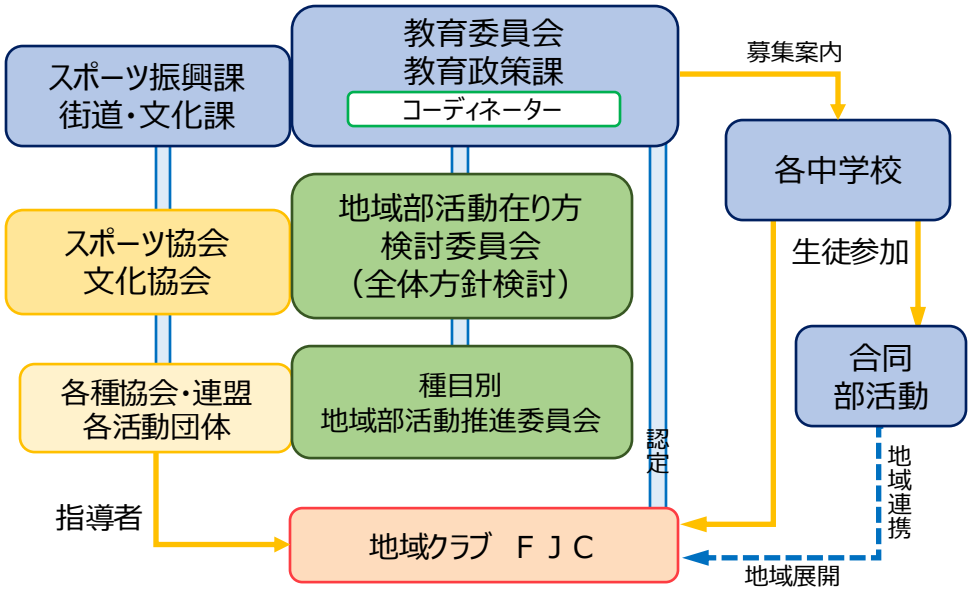
(令和６年９月市教委調べ)

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・教育政策課・・・部活動改革の主幹、学校との調整・連携、関係課・関係団体との連携・調整

◉首長部局

・スポーツ振興課・・・スポーツ協会・スポーツ推進委員等との連絡・調整

・街道・文化課・・・文化協会との連絡・調整

年間の事業スケジュール

令和６年５月	第１回在り方検討委員会の開催
令和６年６月	市校長会中学校部会参加 第１回種目別推進委員会の開催 サッカー、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾃﾆｽ、剣道
令和６年７月	バスケットボール
令和６年９月	第２回在り方検討委員会の開催 市校長会中学校部会参加 第２回種目別推進委員会の開催 サッカー、バレーボール、卓球、柔道
令和６年10月	ソフトテニス、バスケットボール、剣道 市校長会中学校部会参加 県中体連事務局訪問
令和６年11月	第３回在り方検討委員会の開催 エリア顧問会議(２エリア)参加
令和６年12月	エリア顧問会議(２エリア)参加
令和７年１月	セントラルＦＪＣ説明会の開催 第３回種目別推進委員会の開催 ソフトテニス、剣道、卓球、サッカー
令和７年２月	バレーボール、バスケットボール 第４回在り方検討委員会の開催 市校長会中学校部会参加
令和７年３月	セントラルＦＪＣ認定・広報等準備
令和７年４月	セントラルＦＪＣ部員募集、活動開始

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	10 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（ 3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	5 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
藤枝柔道クラブ	既活動団体	柔道	週 3 回	18:30 ～ 20:50	中１ 5名 中２ 1名 中３ 7名	4月 ～ 3月	藤枝市武道館	4 人	2 人（内、兼務 0 人）	月会費 2,000 円	地域クラブ
国士塾	既活動団体	柔道	週 3 回	19:00 ～ 20:50	中１ 2名 中２ 4名 中３ 1名	4月 ～ 3月	静岡県武道館	4 人	2 人（内、兼務 0 人）	月会費 2,500 円	地域クラブ
藤枝リアン	既活動団体	バレーボール（男子）	週 3 回	平日夜間 日曜午前中	中１ 4名 中２ 8名 中３ 6名	4月 ～ 3月	小中学校体育館	4 人	1 人（内、兼務 0 人）	月会費 4,000 円	地域クラブ
ＦＪＳ	競技団体	サッカー（女子）	月 1 回程度 体験会を実施	日曜日 午前中	中１ 6名 中２ 3名 中３ 1名	4月 ～ 3月	市サッカー場 中学校	4 人	指導者が兼任	今年度は無料	出場無し

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ＦＪＳは、今年度、女子サッカーの普及に努め、体験会を会場を変えながら実施。
- 他３クラブは、随時、見学、または、体験活動を行うことができる。

2.実証内容と成果

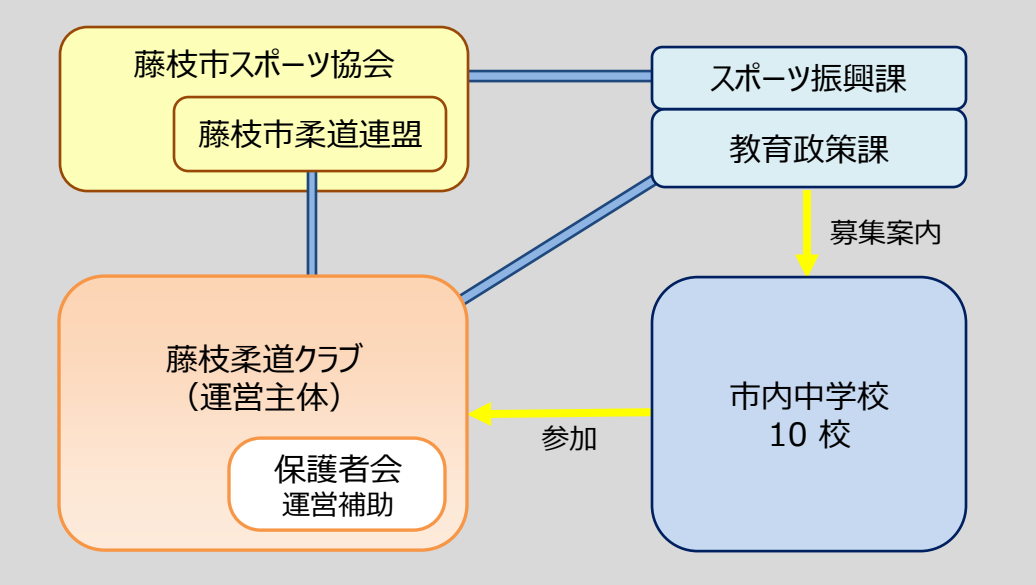
スポーツ庁

主な取組例

●藤枝柔道クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営団体名	藤枝柔道クラブ
期間と日数	４月１日 ～３月31日 月12回程度
指導者の主な属性	柔道連盟　公認柔道指導者
活動場所	藤枝市武道館
主な移動手段	自転車・保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	24,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険等 生徒１人あたり：1,500円/年 指導者１人あたり：8,340円/年 (2種類加入)

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



○指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- ●統括責任者　　役割：代表、全体統括
- ●主任指導者　１名　役割：全柔連・大会出場などの登録、保険対応、練習メニュー立案
- ●指　導　者　　３名　指導、主任指導者の補助
- ●運営補助者　２名　役割：会計

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備①

取組事項

〇統括コーディネーター２名を教育政策課に配置し、学校、関係団体、クラブ、関係課等の連絡調整等を集中して行った。

〇地域部活動在り方検討委員会で全体の方向性を、種目別地域部活動推進委員会で種目の実情に応じた対応を検討することができた。

〇市校長会中学校部会に出席し、連携体制を構築、部活動のエリア化の準備を進めた。

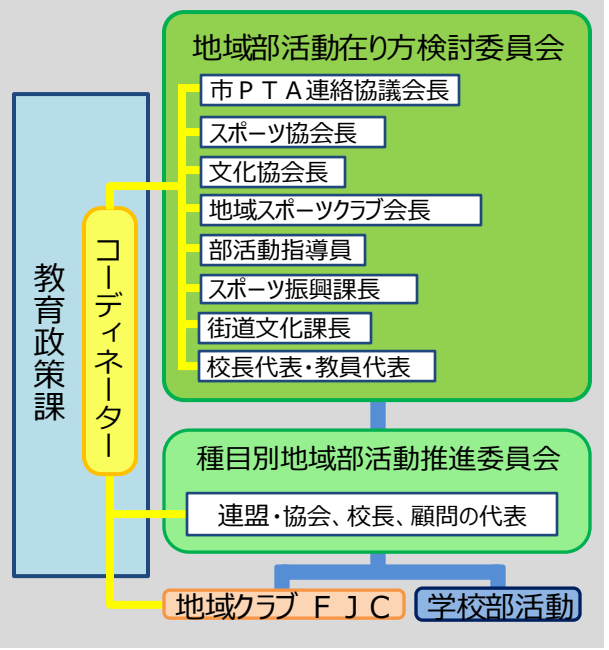
取組の成果

〇統括コーディネーターを教育政策課に置くことで、体制整備等において関係課・団体との連絡・調整を円滑に行うことができた。

〇様々な団体や競技団体の代表者で構成する地域部活動在り方検討委員会・各種目推進委員会を行うことにより、それぞれの立場と意見交換を行うことができ、併せて関係団体の理解・協力を得ることができた。

〇２種類の委員会を行うことにより、中学生のこれからの課外活動（クラブ）をエリアとセントラルに分け、問題点や対応策を検討しながら具体的な準備を進めることができた。

〇先行実施した地域クラブや関係団体と状況や課題を情報交換する中で要綱を制定し、新たにFujieda Junior Club（ＦＪＣ）認定制度を制定することができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・スポーツ振興課、街道・文化課と毎月情報交換会を行い、連携を深めた。
・4回の在り方検討委員会、各種目３回程度の推進委員会を開催した。
・Fujieda Junior Club認定制度実施要綱を作成した。
・関係団体との連携・調整に努め、ＦＪＣ指導者説明会を開催した。

今後の課題と対応方針

・部活動改革は初めて行うことであり、多くの課題を事前に把握し全てに対応することは難しい。今後も改革を進めながら問題に対応していく。
・今後の地域展開では、休日から地域指導者を導入するが、安心して指導を任せることができる人材の確保と報酬の財源が大きな課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備②

取組事項

〇学校部活動の改革について、コーディネーターの教育政策課配置の利点を活かし、校長会や各中学校と連携しながら、競技団体（各連盟・協会）の協力を得て、検討を進めることができた。

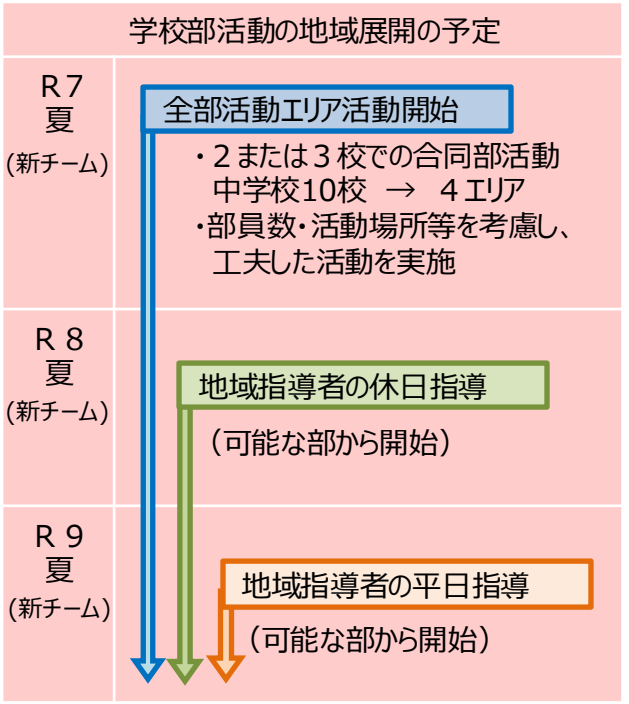
〇学校部活動の地域展開を前向きに進められるように、教員にその必要性を示し、理解を深めることができた。併せて教員の意見も吸い上げ、具体的な対応につなげることができた。

取組の成果

〇統括コーディネーターが中心となり、学校部活動について、校長会、各中学校と意見交換をしながら、競技団体にも協力いただき、改革を進めることができた。

〇学校規模の差や少子化等に関する市の課題に対応し、持続可能な中学生の活動の場を確保することを考え、学校部活動の地域展開として、「中学校10校の部活動」→「４つのエリアでの部活動」→「地域指導者の休日指導」→「地域指導者の休日・平日指導」という段階的な実施に向けて準備を進めた。

〇各種目・各部により状況が異なるため、工夫したエリア活動を進めていくこととし、要望を受け、全てのエリアでエリア顧問会議を実施した。コーディネーターも全エリアの会議に出席し、部活動改革の必要性の確認とエリア化の準備の支援を行った。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・ 校長会中学校部会に年間５回出席し、学校との連絡・調整を行った。

・今後の部活動改革の周知チラシを作成し、校長から教員、教員から生徒への説明を依頼した。教員の認識に差があったため、質問を集約して教員用Ｑ＆Ａを作成。教員が共通理解をして、改革を進めるようにした。

今後の課題と対応方針

藤枝市の中学生は今後10年で40%減となる。現在、部員数に差があり、試合出場や練習場所を考えると一律のエリア化は難しい。ただし、少子化が進み教員数が減少してからでは、学校に部活動改革を進める余裕が無くなることが考えられる。そのため、今から部の状況に応じてエリア化の準備を進めていくことが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

〇認定制度と指導者の掘り起こし

・Fujieda Junior Club（ＦＪＣ）認定制度の制定（実施要綱の制定）

・セントラルＦＪＣの実施上の留意点（指導・運営者用資料）の作成

・ＦＪＣ指導者説明会の実施、申請受付

・ＦＪＣの役割（指導者に求めたいこと）と指導者研修会の内容等の検討

取組の成果

〇各委員会で様々な立場の方から意見を聞き、ＦＪＣ認定制度実施要綱を制定した。

〇現在、試行している地域クラブがセントラルＦＪＣとなり、将来、学校部活動がエリアＦＪＣとなって加わることを想定し、令和７年度から本格実施するセントラルＦＪＣについて、具体的な活動上の留意点を作成した。

〇各競技団体や活動団体等に協力を依頼し、ＦＪＣ認定制度の指導者説明会を実施した。８種目16団体の代表の方が参加し、終了後、８団体が申請の可能性があるとして連絡先等を提出した。

〇実施する予定のＦＪＣ指導者研修会について、指導者に求められることと研修会の内容について、在り方検討委員会で検討を進めた。

指導について

・勝利至上主義ではなく、人間的な成長を考えての指導。

・一部の生徒ではなく、誰もが活動を楽しむことができる指導。

・中学生の考えや思いに対応した指導。

・保護者や学校の顧問と連携しての指導。

指導者研修会の内容

・ＦＪＣの役割

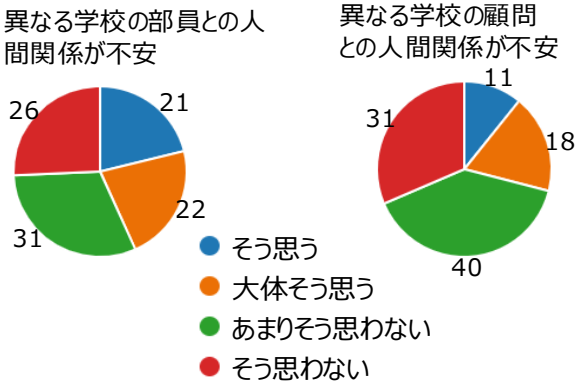
・救急救命、感染症、熱中症の対応

・特別な支援

・体罰やハラスメント等の防止

・運営や指導についての指導者同士の情報交換

«エリア部活動での中学生の不安»



(R6教育委員会調べ)

今後の課題と対応方針

・ＦＪＣは今後も増やしていく予定であり、実施団体（指導者）の人材確保を継続して行っていくことが必要。

・指導者説明会で個別質問にコーディネーターが対応したが、地域の方の部活動改革の周知がまだまだ不十分だとわかった。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〇校長会との連携を強化し、市校長会や臨時の中学校部会に参加した。

〇両隣の焼津市と島田市の教育委員会を訪問し、それぞれの部活動改革について情報交換を行った。

〇スポーツ振興課と街道文化課に、各月１回、部活動改革の取組の状況報告を行い、連携体制を作った。

〇スポーツ協会や競技団体の会合等に要請・または必要により出向き、改革の説明等を行った。

取組の成果

〇市校長会でも部活動改革にきちんと対応することを考え、部活動に特化した臨時中学校部会を定期的に開催し、コーディネーターが５回参加した。小学校部会には１回参加した。

〇特に部活動改革の「学校部活動→エリア化→地域展開」に関して、学校の課題に教育政策課も対応を考え、助言を行った。また、教育政策課の取組への協力を小・中学校に依頼し、市内教員と小学校５、６年生、中学校１，２年生及び保護者への広報や中学校１，２年生と小・中学校教員へのアンケート調査を円滑に行うことができた。

〇藤枝市は、中体連を含めた各種大会を志太大会等として焼津市、島田市と合同開催することが多いため、情報交換は今後も必要である。

〇首長部局のスポーツ振興課と街道文化課との連携について、改革初期の現在は、スポーツ協会・文化協会との連携仲介等が中心だったが、今後、クラブの活動支援等でより必要性が高まると考えられる。

〈例〉スポーツ協会との連携

スポーツ協会は、市の各競技団体が所属し、藤枝市新人戦の主催者でもある。市の部活動改革について説明し、協力を依頼した。その結果、各競技団体に、新人戦をはじめ市内大会においては、今後、エリア部活動に対応した大会開催に柔軟に取り組むよう指示があった。

〈例〉野球連盟との連携

エリア部活動を先行実施している軟式野球において、家庭の負担を考えると、試合用ユニフォームを新たにそろえることが難しいという問題があった。野球連盟の会合に参加し、状況説明を行うことで当面、市内大会ではユニフォームがそろわなくてもよいという返答をいただいた。

今後の課題と対応方針

学校部活動は、エリア化後に地域展開を計画しているが、種目・大会によって、エリア制合同部活動のチームが参加ができないものがある。今後も競技団体との連携を継続し、大会参加が可能となるように働きかけたい。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

保護者世代を含む社会の多くの人が、学生時代に部活動を行い、そこで身に着けたことを価値づけている。その部活動を大きく変えることは、心情的にも複雑だと思われる。また、地方の市では、人材、財源等が潤沢ではなく、部活動改革は難しい取組である。

藤枝市の部活動改革は、教員の働き方改革が主ではなく、子どもを中心に考え、部活動に関する課題解決を行うことを考えた。市内の中学生が居住地区によらず、誰でも同様に活動の選択肢があり、専門的な指導を受けることができる持続可能な体制を模索しながら着実に進むことを考えた。

コーディネーター２名を教育委員会教育政策課に配置することにより、移行初期として、関係団体や小・中学校との連携と協力体制を構築し、生徒や保護者の様子も把握しながら改革を進めた。令和６年度は、地域クラブを先行実施し、その状況を参考にしながら全体としての土台作りを進めた１年となった。来年度、セントラルのクラブとエリア部活動が具体的に動き出す。今後も、新たに生まれた問題に対処しながら、改革を着実に進めていきたい。

●成果の評価

〇先行実施したセントラル方式のクラブの状況を参考に、Fujieda Junior Club認定実施要綱を作成し、教育委員会がクラブを認定する制度を作った。部活動に無い種目についても、認定し生徒に紹介することが可能となった。

〇学校部活動については、段階的に地域展開を進めることとし、まずは令和７年度中の全種目エリア化に向けて準備を進めることができた。

〇コーディネーター2名を教育政策課に配置することで、スポーツ協会や競技団体（各種目の連盟・協会）、校長会等との連携を進めることができた。

〇部活動改革を進める上で、指導している教員に必要性を理解してもらうことは不可欠と考え、各エリアで行った各種目顧問会議にコーディネーターが参加した。部活動改革について説明することで顧問教員との共通認識を持つことができた。

●今後に向けて

〇市内の状況を見ると、生徒数の学校による差、種目による差、部による差があり、今後の少子化の進行も地区による差があると考えられる。一律の推進が難しいと考え、それぞれの状況をきちんと把握し、各団体と連携して部活動改革を推進したい。

〇来年度は、セントラルＦＪＣとエリア部活動が実施される。新たに生まれた課題を解決しながら前進するスタイルで中学生の課外活動の充実を図りたい。

〇地域展開が進むほど、人材と財源の確保が必要となる。簡単な問題ではないが、検討を深めて対応できる準備を進めていきたい。

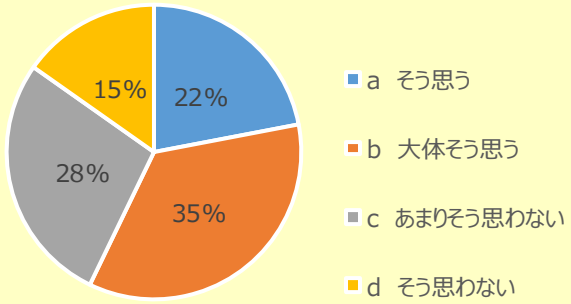
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

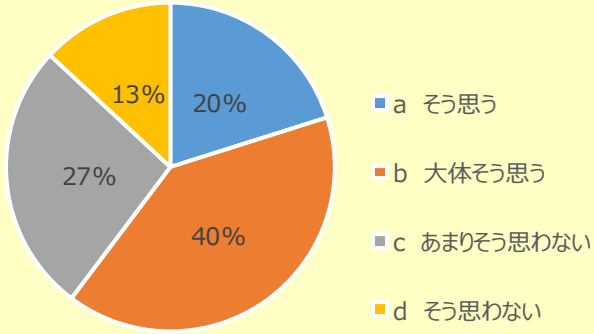
アンケート結果

●アンケート結果　　中学校１，２年生を対象とした部活動エリア化に関する意識調査①　　Ｒ６市教委調査

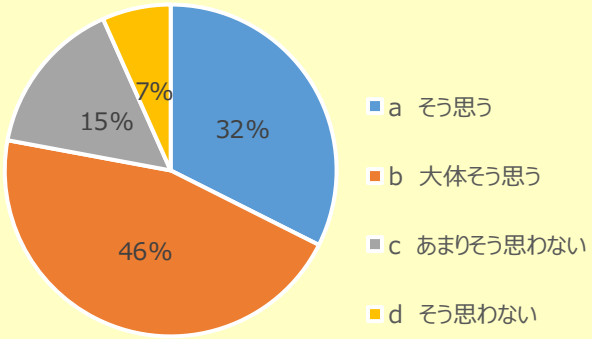
＜１＞　エリア部活動へ参加することは好きだ（好きになりそう）



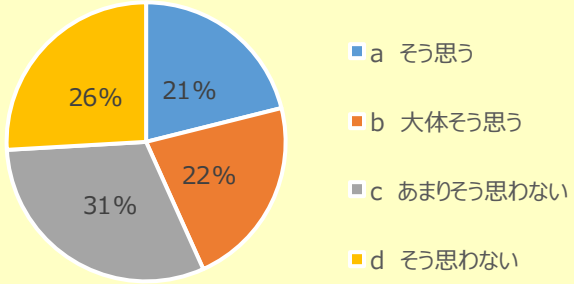
＜２＞　エリア部活動へ参加することはやる気がでる（やる気がでそう）



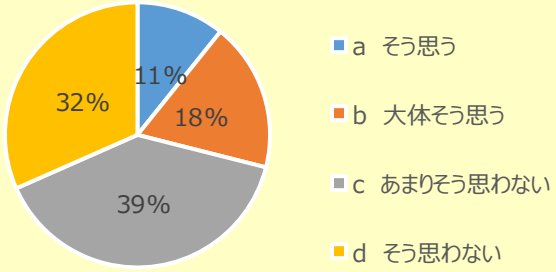
＜３＞　エリア部活動への参加で、人間的に成長できる（成長できそう）



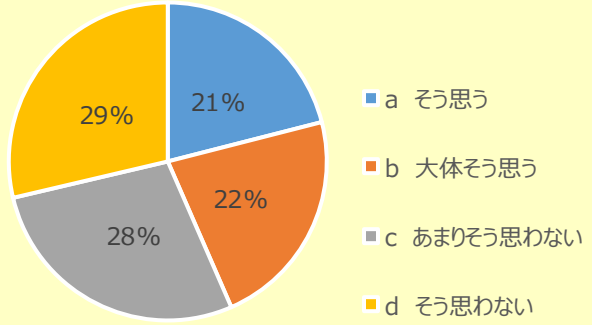
＜４＞　エリア部活動への参加で、異なる中学校の部員との人間関係に不安を感じる。



＜５＞　エリア部活動への参加で、中学校の顧問の先生等との人間関係に不安を感じる。



＜６＞　エリア部活動への参加で、活動場所への移動に不安を感じる。



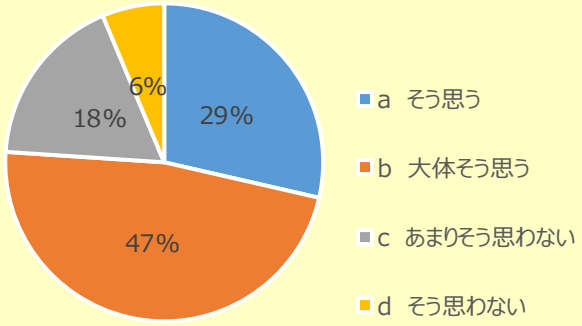
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

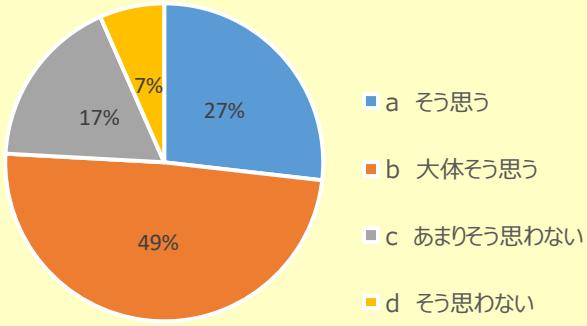
アンケート結果

●アンケート結果　　中学校１，２年生を対象とした部活動エリア化に関する意識調査②　　Ｒ６市教委調査

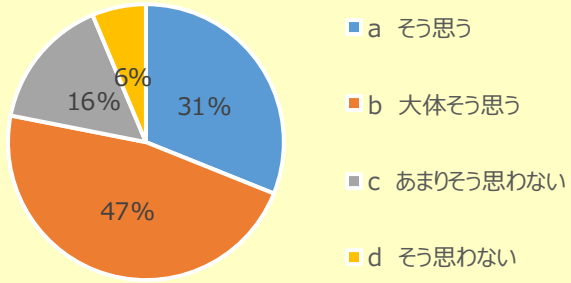
＜７＞　エリア部活動で、部員同士の良い人間関係を築ける（築けそう）。



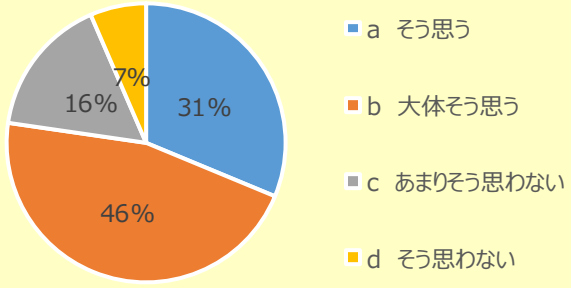
＜８＞　エリア部活動で、チームとして良い集団になれる（なれそう）。



＜９＞　エリア部活動への参加で、自分の競技についての専門的な技術が身に付く（身につきそう）。



＜16＞　エリア部活動への参加で、自分の競技が上手になる（上手になりそう）。



令和７年７月（新チーム）からの部活動のエリア化に向けての調査で、全ての項目において、肯定的な意見が否定的な意見より多くなった。エリア制の部活動について、「情意」「不安」「人間関係・集団作り」「技術向上」に肯定的に捉えている生徒が多いことが推察される。先行している野球部が順調に活動していることもその一因になっていると思われる。

ただし、人間関係や移動に不安を感じている生徒もいるため、十分に配慮して活動していくことが求められる。

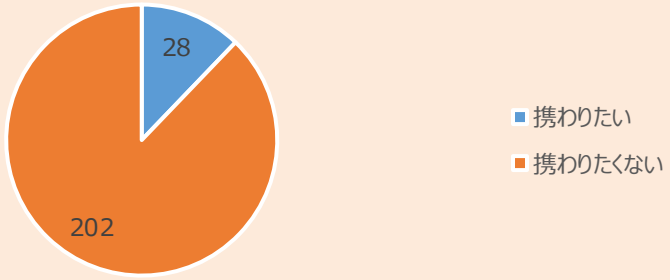
2.実証内容と成果④

スポーツ庁

アンケート結果

●アンケート結果　小・中学校の教員を対象とした兼職兼業で地域指導者となることについての意識調査①　Ｒ６市教委調査

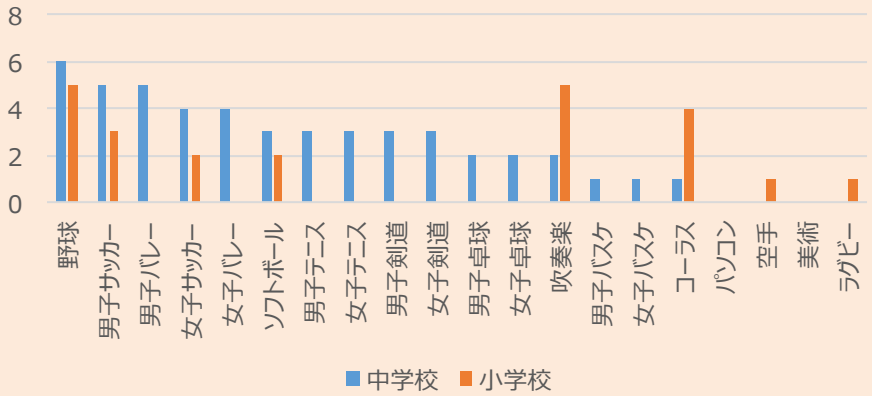
地域指導者として休日の部活動に携わりたい【中学校】



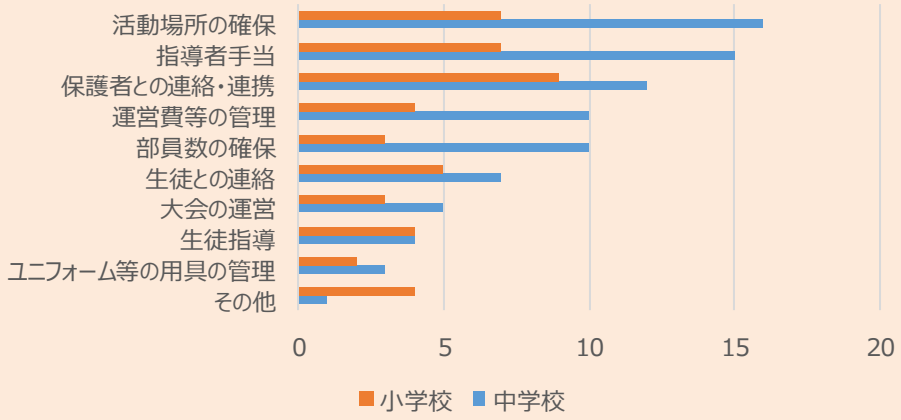
地域指導者として休日の部活動に携わりたい【小学校】



地域指導者として指導してもよい種目



地域指導者となることを検討する際、気になる点



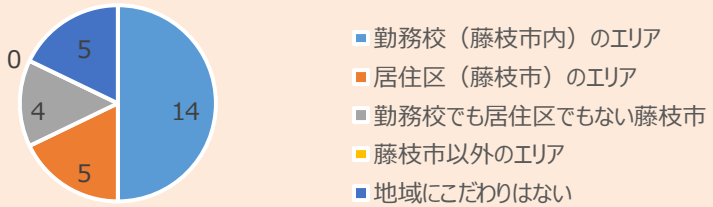
2.実証内容と成果⑤

スポーツ庁

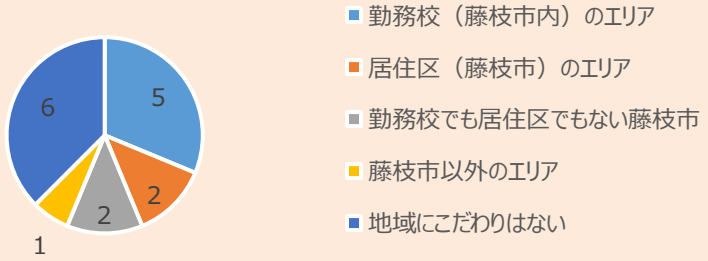
アンケート結果

●アンケート結果　　小・中学校の教員を対象とした兼職兼業で地域指導者となることについての意識調査①　　Ｒ６市教委調査

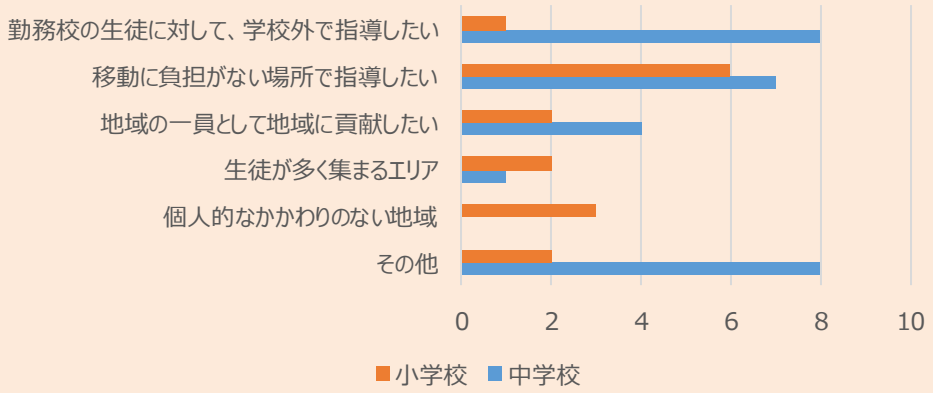
地域指導者として活動したいエリア【中学校】



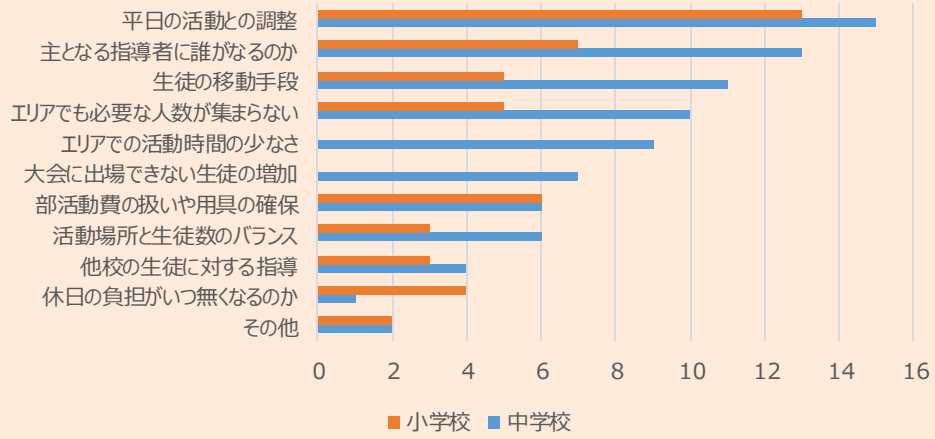
地域指導者として活動したいエリア【小学校】



活動エリア選択の理由



地域指導者となる場合に気になること



兼職兼業により地域指導者となってもよいと考える教員は、多くはない。地域の方も少ないことが想定されるため、教員の不安に対して丁寧に対応することが必要である。また、指導する場所にこだわりがある場合も想定されるため、規定等を整備しておく必要を感じる。

2.実証内容と成果⑥

スポーツ庁

地域クラブ活動の様子と参加者の声

藤枝柔道クラブ（柔道）



【対人練習前の挨拶】

≪他の中学校の生徒との活動について≫

・同じ中学校の生徒だけだと、練習相手になる人数が少ないが、クラブだと、いろいろな相手と稽古ができる。

・クラブだと、専門的な先生に教えてもらえる。とても良いことだと思う。

≪部活ではなく、クラブでの活動について≫

・他のクラブの中には、ガツガツ練習しているクラブもあるようだ。そういうクラブは、練習をやらされている感が強く出ているところもあるような気がする。

・このクラブは、自主的に頑張ることを見守ってもらっている気がしている。伸び伸びと活動ができていると思う。

・クラブだと、本当に、自分がやりたい競技種目である「柔道」ができる。

・平日練習でも、１年中、２時間しっかり練習できることは、幸せなことだと思う。

国士塾（柔道）



【受け身の練習】

≪他の中学校の生徒との活動について≫

・友だちが増えて、楽しい。

・仲間の、普段の学校生活のことは、全く情報がないが、柔道の練習を通して、人柄や性格がだんだんわかってくるような気がしている。そこが、楽しいと思える。

≪部活ではなく、クラブでの活動について≫

・部活動の場合、練習後に、同じ学校の友だちと、たくさんおしゃべりしながら家路につくが、クラブだと、保護者送迎となるため、練習の行き帰りに、友だちとのおしゃべりがないことが、ちょっと寂しい。

・部活動だと、学校の道場で練習をするので、夏、暑かったり、冬、寒かったりするけれども、武道館では、いくらか空調が効くので練習に集中できる。

2.実証内容と成果⑦

スポーツ庁

地域クラブ活動の様子と参加者の声

リアン（男子バレーボール）



【パス練習】

≪他の中学校の生徒との活動について≫
・関係性は、学校の友だちと異なることは全くない。
・クラブ員同士、真剣に、そして、仲良く練習ができている。
・練習試合や合同練習では、他のチームの選手とも交流がある。
≪部活ではなく、クラブでの活動について≫
・そもそも、自分が通っている中学校には、男子バレー部がない。
・部活の場合は、冬季は、平日の練習時間がとても短く、10分～15分で活動終了の日もあるところ、クラブ「リアン」では、冬季でも、2時間みっちり練習できるところが、良いところだと思う。
・保護者に送迎してもらって参加している。応援してくれている保護者に応えるためにも、「しっかりやろう」という気持ちでやっている。

ＦＪＳ（女子サッカー）



【ミニゲーム】

≪他の中学校の生徒との活動について≫
・いつも、同じメンバーで活動するよりも、違ったメンバーで活動する方が面白いと思う。
・その日に、一緒に活動する相手の特徴をちょっと見て、自分のプレーを考えてやっている。
≪部活ではなく、クラブでの活動について≫
・他学年の人など、いろいろな人と関われるところが良いと思う。
・少年団の時のチームは、ドリブルをする人が多いのに対して、ここでは、みんなにパスを送ることを心掛けてプレーしている。

2.実証内容と成果⑧

スポーツ庁

広報資料

藤枝市の部活動改革

藤枝市の中学校部活動改革の内容と計画をまとめました。藤枝市では、生徒の活動の機会をなるべく確保しながら、持続可能な形へと移行を進めていきます。ご理解とご協力をお願いします。



1　なぜ部活動改革なのか？　～部活動を取り巻く諸問題～

【国・文部科学省】
- 少子化や学校の多忙化等の諸問題
- 将来にわたる生徒の諸活動の機会の確保
  （学校部活動⇒地域クラブ活動）
- 日常の学校教育活動の充実
- 県や市町による異なる状況に応じての推進

【藤枝市】少子化等と現状の問題

○少子化問題

12歳人口は　5年後 **20%減**　10年後 **40%減**
（R6.4.30 調べ）

- 生徒数・教員数の減少 → 現在の活動維持は困難

○現状の問題

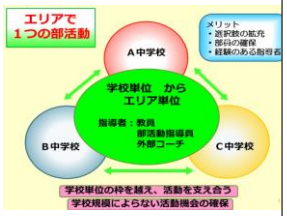
- 学校による部活動の種目数の違い
- 種目経験のない教員が行う指導
- 学校の多忙化による教員の奉仕的な活動の限界

2　藤枝市の取組　～少子化等と現状の問題解決を図ります～



第1段階　学校単位の部活動から 2 種類の合同部活動に！

エリア部活動



市内4エリア
東部　岡部・
広幡・葉梨
西部
青島・青島北
南部
高洲・大洲
北部　藤枝・
西益津・瀬戸谷

スポーツ振興センターの給付対象

想定：野球、男子サッカー、バスケ、女子バレー、卓球、ソフトテニス、ソフトボール、剣道、吹奏楽

セントラル部活動



保険に加入しケガ等に対応

想定：女子サッカー、男子バレーボール、柔道、文化的活動

※ 現在、各種大会やコンクールに合同部活動も参加できるよう規定等が変更されてきています

第2段階　エリア部活動の指導を地域の方に！！

（1）まずは、休日について、可能なところから地域の方に指導をお願いします。
地域の方が指導する活動を Fujieda Junior Club（ＦＪＣ）とします。
※ 地域の指導者には、希望する教員を含みます。



«部活動改革広報用チラシ»

部活動改革について、通知は配布したが保護者への周知は十分ではなかったため、令和６年度に作成・配布した広報資料。市内の小・中学校教員、中学校１，２年生と小学校５，６年生及びその保護者に配布。

3　今後の計画（令和6 年 10 月時点での予定）

市教委や学校が連携して、**地域の方が指導する Fujieda Junior Club（ＦＪＣ）**に徐々に移行し、持続可能な活動となることを目指します。

時　期		Ｒ６春～	Ｒ７夏（新チーム）～	Ｒ８夏（新チーム）～	将　来
ポイント		２種類の合同部活動開始	全種目のエリア化	地域の指導者の導入	全活動のＦＪＣ化
エリア部活動	実施種目	野球、ソフトボール	全種目エリア部活動実施 （男子サッカー、バスケ、女子バレー、卓球、ソフトテニス、剣道、吹奏楽）		
	活動形態	平日は学校ごと、休日はエリア 夏季休業中はエリアでの活動も可		学校部活動は継続 ＦＪＣの一部試行	地域の活動（ＦＪＣ） 施設は学校を主に活用
	指導者	平日は教員（一部　部活動指導員） 休日は教員または部活動指導員		休日は地域の指導者 （可能なところ）	平日・休日ともに 地域の指導者
	その他	希望する部はエリアで活動	部の状況により工夫した活動を段階的に実施	休日に地域の方が指導するエリアは、学校と連携して活動	学校は協力・連携
セントラル部活動	種　目	女子サッカー、柔道、男子バレー		状況により、エリアからセントラルに移行する種目も	
		文化的活動を含む他の活動の実施を検討	準備ができた活動から実施	状況により種目の拡大	
	対　象	部が無い学校の生徒	全中学校の生徒		
	指導者	地域の指導者			

子供たちの課外活動を持続するためには
地域の皆様、保護者の皆様のご理解とご協力が必要です
よろしくお願いします！

※「地域の指導者」には「指導を希望する教員」を含みます。
※ 部員数や指導者等の状況が異なる場合、種目間等に多少の違いが生まれる可能性があります。
※ 移行期間中は、よりよいものを検討しながら進めるため、今後、内容や計画を変更する可能性があります

藤枝市教育委員会教育政策課

教育政策課作成　令和６年11月配布

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年		令和６年		令和７年	令和８年以降
各委員会設置 検討開始 方向性の確認	生徒・保護者への広報 クラブの選定	地域クラブ試行 生徒、保護者への説明	FJC認定制度制定 部活動のエリア化の検討・準備	FJC募集・活動の開始 部活動のエリア化	エリア部活動の休日の地域展開

●ステークホルダー

スポーツ協会、文化協会、活動団体、学校、生徒・保護者

●経過

地域部活動在り方検討委員会・種目別推進委員会（３種目）設置・開催

セントラル方式クラブの実施を検討

中学校との調整　野球部エリア制を試行

小６、在校生への説明　保護者へ広報

●実施にあたって生じた課題

有効な合同部活動の実施方法

エリアでも部活動の実施が難しい種目への対策

●実施内容、工夫した点 等

部活動のエリア化は、全種目同一のエリアとし、学校間での連携をしやすくした。

●ステークホルダー

活動団体・クラブ、生徒・保護者、学校、競技団体

●経過

セントラル方式クラブ試行

小５～中２、保護者への広報

Fujieda Junior Club認定制度の制定

ＦＪＣ認定制度説明会開催

学校との調整　部活動エリア化準備

●実施にあたって生じた課題

種目、部により部員数の違いや活動場所の制約等がある

児童・生徒・保護者への周知が不十分

●実施内容、工夫した点 等

一律ではないエリア活動とし、各エリアで顧問会議を実施して何ができるかを検討

●ステークホルダー

活動団体・クラブ、生徒・保護者、学校、競技団体、休日の地域指導者

●経過

R7セントラルＦＪＣの実施　R8拡大

R7全部活エリア活動開始

R7休日の地域展開の検討

R8休日の地域展開実施(可能なところ)

●実施にあたって生じた課題

種目により出場できない大会がある

休日の指導をお願いしたい人材の発掘

地域指導者の報酬額と月謝額

●実施内容、工夫した点 等

部員数、活動場所等の状況に応じた工夫したエリア活動の展開

報酬と月謝については検討を継続

3.今後の方向性

スポーツ庁

